

平成 30 年度 第 2 回市川市少年センター運営協議会 会議録（発言要点）

日時 平成 30 年 11 月 7 日（水） 15 時 00 分～17 時 00 分

場所 生涯学習センター 第 3 研修室

出席 佐藤会長、三部副会長、小林委員、宮崎委員、堀江委員、相原委員(代理 永田氏)、
岸委員、飯田委員、稲垣委員、神吉委員、富田委員、木村委員
(教育委員会) 早川所長、石原所長、大根田主査、石原副主幹

1 運営協議会 開会

2 市川市教育委員会 挨拶 [早川所長]

3 会長挨拶 [佐藤委員]

4 報告

①最近の補導、相談活動実施状況（平成 30 年 4 月～10 月）[大根田芳光]

②薬物乱用防止キャンペーン [石原朝子]

【意見】

(木村)学校から「配られているものはもらってはいけない」と指導されているらしく、受けとってもらえないという声があった。

(堀江)配る側がもらってくれそうな人を選んでいることはないか。

配りきることを目標にすると、本当に伝えたい層に届かないのではないか。

(木村)中学校や高等学校に出向いて直接啓発をするなど、別の方法があるのではないか。

(富田)知らない人に配るのは勇気の要ること。アドバイスがあれば学生もできるようになる。
→啓発としては意義のあることだが、配り方や啓発の方法について検討の余地がある。

5 警察より最近の少年の補導状況等について

市川警察署 [相原委員(代理 永田氏)]

・昨年同時期から補導件数は半減している。(今年 1 月～9 月 684 件 昨年度マイナス 692 件)

→深夜徘徊・喫煙・不健全娯楽(18 時以降のゲームセンター出入り・カラオケでの不純異性交遊等)

・事件の発生件数も昨年 1 月から 6 月で 39 件あったものが今年同時期で 13 件。

→窃盗・器物損壊・傷害

特に性犯罪が増えている(校内での盗撮・青少年健全育成条例違反)

SNS(「ひま部」・「トーク」など)上での成人との交流から犯罪に発展するケースがある。

6 協議 [大根田主査]

・平成 30 年度 少年センター活動方針と計画 について

○運営テーマ「インターネット犯罪に巻き込まれないために」に対する進捗状況

①ネットトラブル防止出張授業及び実施状況について

【意見】

(木村)ネットの世界はどんどん広がっていて、大人が理解するころには子供は先に行っている。

(富田)実際に YouTube で顔売ってスカウトされる子がいるので、真似をしたい子が出て当然。

(木村) YouTuber になりたい、という子供も確実に増えている。

(富田)保護者も簡単に動画を上げたりしているので、ハードルが下がっている

(佐藤)知らなければネットやアプリに触れることもない。教えることで知らせてしまう面もある。

(富田)保護者や教員は積極的に情報収集をしていく必要がある。

(佐藤)便利に使える半面、攻撃もできる。今後の啓発の仕方を考えていくべき。

小・中・高・大学での現状は

(佐藤)地域によって、所持率や使い方はさまざま。

「許可なく」写真や動画をアップして、保護者どうし、子供どうしのトラブルがある。

(小林) SNS の進歩が目覚ましい。

保護者向けには新入生保護者説明会で警察や企業を招いて講演をしてもらっている。

生徒向けにも全校集会で総合の時間を使って話をしている。

学力の高い子供たちは使い方のコントロールができるが、そうでない子供たちがトラブルに巻き込まれたり巻き込んだりしても、子供同士で解決できなかつたり適切な判断ができなかつたりと、問題が大きくなる傾向にある。

「トラブル解決のために教員がいるのではない」ということを保護者にも理解してほしい。

(宮崎) 震災をきっかけに携帯電話の所持を許可したという経緯がある。

啓発は保護者にも生徒にも必要だと考えている。

ネットパトロールは業者に委託している。

今は部活の連絡も LINE を使っているので、SNS を使うなということではもうできない。

トラブルとしては、制服の画像を加工されて拡散してしまった例がある。

携帯のない時代の「～すると危険」は、身に迫る危険を感じさせることができたが、インターネットは「身の危険を感じない」ことが大きな問題だと考えている。

(岸) 攻撃した責任をとらない・根拠のない誹謗中傷に惑わされない、ということを指導していく。

「みんなが」「普通は」に振り回されなくて、自分で選択できる力を身に付けさせる。

匿名の無責任な発言を切り捨てる勇気、他人の評価に身をゆだねない強さを持たせたい。

その姿は大人が範を示すことが必要。

(佐藤) マスコミが煽っている面もある。

(岸) 対面して身近な関係の中で承認されればよいものを、「いいね」をほしがりすぎている。

(堀江) 「自分」が希薄で、個としての強さがない。

「インスタ映え」＝みんなが賛同する＝よいもの という考え方がおかしい。

(岸) これは違う、がいえない社会になっている。

1人1人が自信を持てる、みんなが違うということに意味がある、ということを教える。

(堀江) ハロウィンの騒ぎに見るように、楽しいことはみんなが好きだが、それにただ乗りしている。

1人の力ではできないことも、悪乗りでやってしまう。

(佐藤) 「みんな一緒」が大きな流れになっている。まずい・危険・困った、を考えさせたい。

(岸) みんなに合わせることに慣れすぎていて、危機感がない。

(堀江) 自制心がないわけではないが、「やっている人」と「見ている人」に分かれていて、「止める人」「声をあげる人」がいないのが現状。

(岸) 躰がなっていない、というのではなく、内側の支えが弱いので個が育ちにくくなっている。

(佐藤) 年代に応じて指導の内容を変えていくために、大人が考え、連携していくことが大切。

②ネットパトロールの実施状況について

(相原[永田])警察でもサイバーパトロールとしてTwitter上でキーワードを拾っている。

気になる書き込みをしている人に接触をしたり、教育したりしている。

人をつかまえることは警察しかできないので、注意深く見ていく必要がある。

(富田)保護者公認でSNSをさせていることも多いので、まずは大人のマナーも見直してほしい。

(堀江)保護者と子供、両方に啓発していくことが大切。

(佐藤)学警連と生徒指導主任会を来年度から合同開催とし、一層の連携を図っていく予定。

小・中・高それぞれが定期的に連携する機会をもつようにする。

流行に流されないで、いつでも気にとめておくことで、継続的な指導ができる。

6 その他

(富田)不審者情報が入っているが、加害状況がエスカレートしている。

(木村)防犯カメラは警察ではどのくらい見ているのか。

(相原[永田])通報があつて現場に行った場合は見るようにしているが、すべてのケースで見ているわけではない。

7 その他

第1回の発言概要について

[石原朝子]

8 事務連絡

[石原所長]

①次回予告 2月27日(火)午後3時 第3研修室

②市川市少年補導員連絡協議会50周年祝賀会について

③駐車券処理について

9 閉会